

原子力発電の受入体制について

1. 日本のエネルギー - 需給

- ☆ 近い将来、方向としては一部を原子力発電に依存しなければならぬ。
- ☆ しかしなおその前に為すべきこともまた少くない。

2. 原子力発電の現段階とその特性

- ☆ どの型が最も経済的かまだ決めかねる。
- ☆ だが、いずれにしても国家資金によらねば到底採算に乗らない。
- ☆ また採算以外のリスクが大きく、動力協定上の制約もきびしい。
- ☆ 初期の導入にはどうしても国が直接面倒を見る責任がある。

3. 受入主体はどこが適当か？

- ☆ 民間企業ではどうか？
- ☆ 原子力研究所はどうか？
- ☆ 特殊会社を新設したらー
- ☆ 電源開発会社を活用したらー

4. むすび

昭和 3 2 年 7 月

原子力発電の受入体制について

1. 日本のエネルギー - 需給

- ☆ 近い将来、方向としては一部を原子力発電に依存しなければならぬ。
- ☆ しかし、なおその前に為すべきこともまた少くない。

○ 最近におけるわが国経済の著しい発展に伴い、電力需要の伸びも極めて旺盛であります。今までは年々6-7%の増加で、ほぼ10年で倍増するのが過去の常識でありましたが、最近の伸長率は従来の2倍以上になり、特に産業用の大口電力の如きは、前年に比し20%以上にも達する増率を示しております。

○ 電力は産業の基盤でありますから、一旦これが不足するとあらゆる産業が麻痺状態に陥ることは言うまでもありません。従つて電力は常に産業の伸びに並行し、むしろ先行して開発し拡充して行かねばなりません。このためここ3-4年来電源の開発が積極的に推進されて来ておりますが、それでもなお十分でなく、鉄鋼や輸送力と共にわが国経済のネックとされております。

○ このような事態に対して電力供給面の見透しはどうでありましょうか？

先ずわが国の包蔵水力は約2,200万KWと言われ、このうち現在までに開発されたものは約1,000万KW足らずで、まだ半分にも達していません。もつとも残された水力地点にはおいおい経済的に有利なものが少なくなつて行く上に、これから必要とされるのは実は大容量の貯水池式のものに外ならないので、水没補償その他の関係もあつて社会的にもだんだん開発が困難となるものと考えられます。従つて今後はその地方の事情や条件だけでもつて安易な開発を行うことなく、広く広域的全国的視野に立ち且つ充分将来を見通し、大規模の上にも、新しく揚水式の工夫をこらすなど慎重且つ強力に開発を進めて行くこと